

# 〈平等〉の視点からみたパート労働の日独比較

田中 洋子

(筑波大学教授)

本報告はドイツにおけるパート労働のあり方を日本のパートの均等処遇・均衡処遇と比較し、特にフルタイムとパートの移動可能性、フルタイムとパートの給与体系・給与差における平等性に着目して論じた。

はじめにドイツで2000年に制定されたパート・有期雇用法が、どのような形でフルタイムとパートの移動性を具体的に職場レベルで規定しているかという点を日本との違いに注目して論じた。次にドイツにおける給与の比例原則を確認した上で、連邦統計局の取入構造調査を使って実際のフルタイムとパートの給与格差がどれほどあるのかを計算した。

その結果、ドイツのパートは週20時間より長く働くパート、週20時間以下で働くパート、さらに社会保険が免除されるアルバイト的なミニジョブで働く者に分類されるが、三種類の雇用形態に応じてフルタイムとパートの給与差がかなり異なっていること、一部

は日本のパートとほぼ同じ水準であることを明らかにした。

他方、ドイツではフルタイムとパートの移動性をより強化するための政策や職場レベルでの試みが進んでおり、結果として仕事とケアの両立が容易になっていることをドイツ企業でのインタビュー調査から明らかにした。

フルタイムとパートの平等性を支える条件である移動可能性と給与差から見た時、日本では法制度改正が進行中ではあるものの、職場慣行を含めてなお改善されるべき点が多いと結論した。

たなか・ようこ 筑波大学人文社会系教授。最近の主な論文に「有期雇用の日独比較」『大原社会問題研究所雑誌』718号(2018年)。労働史・日独労働研究専攻。